

岡本 吉央
okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2014 年 12 月 5 日

最終更新：2014 年 12 月 9 日 08:36

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 1 / 86

目次

① 前回までの復習

② 二部グラフにおける最大マッチング問題

③ 最大流問題

④ 今日のまとめ

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 3 / 86

この講義のねらい

解きやすい問題

多项式時間解法が存在する

解きにくい問題

NP 困難性が証明されている

疑問

どうしてそのような違いが生まれるのか？

部分的な回答

問題の持つ「多面体構造」が「美しい」と解きやすい

「多面体構造」が「美しい」～凸多面体の整数性

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 5 / 86

前回までの復習

整数計画問題の線形計画緩和

観察 (再掲)

(P) の最適値 \leq (LP) の最適値 = (DLP) の最適値 \leq (D) の最適値

特に、

(P) の最適値 = (LP) の最適値かつ(DLP) の最適値 = (D) の最適値 \Rightarrow

(P) の最適値 = (LP) の最適値 = (DLP) の最適値 = (D) の最適値

つまり、次の 2 つが成り立つ場合が重要

- ▶ (P) の最適値 = (LP) の最適値
- ▶ (DLP) の最適値 = (D) の最適値

今日の目標

今までの講義内容を用いて以下の問題に取り組む

- ▶ 二部グラフにおける最大マッチング問題
 - ▶ König–Egerváry の定理
- ▶ 最大流問題
 - ▶ 整数流定理
 - ▶ 最大流最小カット定理

これらの定理は組合せ最適化における基本的な定理であり、この講義では線形計画法の立場から証明を行う

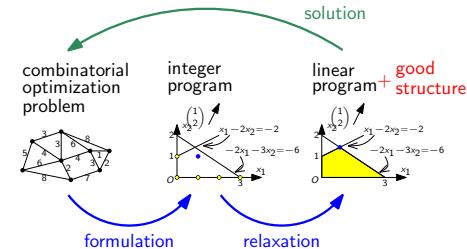
岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 2 / 86

前回までの復習

この講義のねらい：流れ



- 組合せ最適化問題を整数計画問題として定式化
- 整数計画問題を線形計画問題として緩和
- 線形計画問題の「よい」構造を観察
- 線形計画問題を用いて組合せ最適化問題の解決

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 4 / 86

前回までの復習

整数計画問題の線形計画緩和

$x \in \mathbb{R}^n, y \in \mathbb{R}^m$ は変数, $A \in \mathbb{R}^{m \times n}, b \in \mathbb{R}^m, c \in \mathbb{R}^n$ は定数

整数計画問題 : (P)

$$\begin{aligned} & \text{maximize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax \leq b, \\ & && x \in \mathbb{Z}^n \end{aligned}$$

(DLP) + 整数制約 : (D)

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && b^\top y \\ & \text{subject to} && A^\top y = c, y \geq 0, \\ & && y \in \mathbb{Z}^m \end{aligned}$$

(P) の線形計画緩和 : (LP)

$$\begin{aligned} & \text{maximize} && c^\top x \\ & \text{subject to} && Ax \leq b \end{aligned}$$

(LP) の双対問題 : (DLP)

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && b^\top y \\ & \text{subject to} && A^\top y = c, y \geq 0 \end{aligned}$$

観察

(P) の最適値 \leq (LP) の最適値 = (DLP) の最適値 \leq (D) の最適値

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 6 / 86

前回までの復習

凸多面体および不等式系の整数性

行列 $A \in \mathbb{Z}^{m \times n}$, ベクトル $b \in \mathbb{Z}^m$, 凸多面体 $P = \{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax \leq b\}$

凸多面体の整数性

P が整凸多面体 (P のすべての頂点座標が整数) \Leftrightarrow
任意の $c \in \mathbb{Z}^n$ に対して,
(P) の最適値 = (LP) の最適値であり, (LP) は整数最適解を持つ

不等式系の双対整数性

不等式系 $Ax \leq b$ が完全双対整数性を持つ \Leftrightarrow
任意の $c \in \mathbb{Z}^n$ に対して,
(D) の最適値 = (DLP) の最適値であり, (DLP) は整数最適解を持つ

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 7 / 86

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 8 / 86

凸多面体および不等式系の整数性 (2)

行列 $A \in \mathbb{Z}^{m \times n}$, ベクトル $b \in \mathbb{Z}^m$, 凸多面体 $P = \{x \in \mathbb{R}^n \mid Ax \leq b\}$

完全双対整数性の優位性

不等式系 $Ax \leq b$ が完全双対整数性を持つ $\Rightarrow P$ は整凸多面体

つまり,

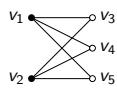
不等式系 $Ax \leq b$ が完全双対整数性を持つ \Rightarrow

任意の $c \in \mathbb{Z}^n$ に対して,

(P) の最適値 = (LP) の最適値であり, (LP) は整数最適解を持ち, (D) の最適値 = (DLP) の最適値であり, (DLP) は整数最適解を持つ

完全ユニモジュラ行列の例

▶ 二部グラフの接続行列



$$B = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

▶ 各成分が $0, 1, -1$ であり,

各列に 1 がちょうど 1 つ, -1 がちょうど 1 つある行列

(演習問題 7.10)

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & -1 \\ -1 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & -1 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 1 & 0 & 0 & -1 & 0 \end{bmatrix}$$

目次

① 前回までの復習

② 二部グラフにおける最大マッチング問題

③ 最大流問題

④ 今日のまとめ

最大重みマッチング

無向グラフ $G = (V, E)$

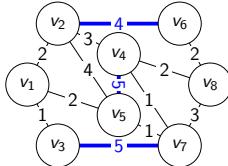
各辺 $e \in E$ に対する非負重み $w(e) \geq 0$ (辺重み関数 $w: E \rightarrow \mathbb{R}$)

最大重みマッチングとは?

w に関する G の最大重みマッチングとは

G のマッチング $M \subseteq E$ で,

G の任意のマッチング M' に対して $\sum_{e \in M} w(e) \geq \sum_{e \in M'} w(e)$ を満たすもの



凸多面体および不等式系の整数性 (2)

完全双対整数性を持つのはいつか?

完全ユニモジュラ行列とは?

行列 $A \in \mathbb{Z}^{m \times n}$ が完全ユニモジュラ (totally unimodular) であるとは, A の任意の正方部分行列の行列式が $0, 1, -1$ のいずれかであること

完全ユニモジュラ行列と完全双対整数性

A が完全ユニモジュラ \Rightarrow 任意のベクトル $b \in \mathbb{Z}^m$ に対して 不等式系 $Ax \leq b$ は完全双対整数性を持つ

つまり, A が完全ユニモジュラである場合はとても重要

行列 A が完全ユニモジュラ \Rightarrow

任意の $c \in \mathbb{Z}^n$ と $b \in \mathbb{Z}^m$ に対して,

(P) の最適値 = (LP) の最適値であり, (LP) は整数最適解を持ち,

(D) の最適値 = (DLP) の最適値であり, (DLP) は整数最適解を持つ

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014年12月5日 10 / 86

前回までの復習

完全ユニモジュラ性を保つ操作

行列 $A \in \mathbb{Z}^{m \times n}$ が完全ユニモジュラ \Rightarrow

(1) $A^\top \in \mathbb{Z}^{n \times m}$ も完全ユニモジュラ

(2) $-A \in \mathbb{Z}^{m \times n}$ も完全ユニモジュラ

(3) $[A | I] \in \mathbb{Z}^{m \times (n+m)}$ も完全ユニモジュラ

(4) $[A | -A] \in \mathbb{Z}^{m \times (n+n)}$ も完全ユニモジュラ

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014年12月5日 12 / 86

二部グラフにおける最大マッチング問題

グラフにおけるマッチング

無向グラフ $G = (V, E)$

マッチングとは?

G のマッチングとは辺部分集合 $M \subseteq E$ で, M のどの 2 辺も同じ頂点に接続しないもの

$\{\{v_1, v_2\}, \{v_4, v_7\}, \{v_6, v_8\}\}$ は $\{\{v_1, v_3\}, \{v_2, v_5\}, \{v_2, v_6\}\}$ はマッチングである

マッチングの辺 $e \in M$ は e の端点を飽和する

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014年12月5日 14 / 86

二部グラフにおける最大マッチング問題

最大重みマッチング問題

最大重みマッチング問題とは?

- 入力: 無向グラフ $G = (V, E)$, 非負辺重み関数 $w: E \rightarrow \mathbb{R}$
- 出力: G のマッチングで, 重みが最大のもの

事実

最大重みマッチング問題は効率よく解くことができる (Edmonds, '65)

効率よく = $|V|$ と $|E|$ に関する多項式時間で

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014年12月5日 16 / 86

最大マッチング問題：定式化 1

重みがすべて 1 のとき、最大マッチング問題という

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化 1

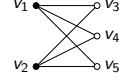
$x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$(P1) \quad \begin{aligned} & \text{maximize} && \sum_{e \in E} x_e \\ & \text{subject to} && x_e + x_f \leq 1 \quad (\forall e, f : \text{同じ頂点に接続する辺}), \\ & && x_e \in \{0, 1\} \quad (\forall e \in E) \end{aligned}$$

これは正しい定式化

最大マッチング問題：定式化 1 — 二部グラフにおける例

$$(P1) \quad \begin{aligned} & \text{maximize} && x_a + x_b + x_c + x_d + x_e + x_f \\ & \text{subject to} && x_a + x_b \leq 1, x_a + x_c \leq 1, x_b + x_c \leq 1, \\ & && x_d + x_e \leq 1, x_d + x_f \leq 1, x_e + x_f \leq 1, \\ & && x_a + x_d \leq 1, x_b + x_e \leq 1, x_c + x_f \leq 1, \\ & && x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f \in \{0, 1\} \end{aligned}$$



ただし,
 $a = \{v_1, v_3\}$, $b = \{v_1, v_4\}$, $c = \{v_1, v_5\}$,
 $d = \{v_2, v_3\}$, $e = \{v_2, v_4\}$, $f = \{v_2, v_5\}$

最大マッチング問題：定式化 2

$x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$(P2) \quad \begin{aligned} & \text{maximize} && \sum_{e \in E} x_e \\ & \text{subject to} && \sum_{e \in \delta(v)} x_e \leq 1 \quad (\forall v \in V), \\ & && x_e \in \{0, 1\} \quad (\forall e \in E) \end{aligned}$$

記法: $\delta(v) = v$ に接続する辺全体の集合

これも正しい定式化

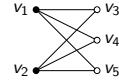
注意

同じ組合せ最適化問題を様々な方法で定式化できる

～「よい定式化」と「悪い定式化」がある

最大マッチング問題：定式化 2 — 二部グラフにおける例

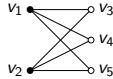
$$(P2) \quad \begin{aligned} & \text{maximize} && x_a + x_b + x_c + x_d + x_e + x_f \\ & \text{subject to} && x_a + x_b + x_c \leq 1, x_d + x_e + x_f \leq 1, \\ & && x_a + x_d \leq 1, x_b + x_e \leq 1, x_c + x_f \leq 1, \\ & && x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f \in \{0, 1\} \end{aligned}$$



ただし,
 $a = \{v_1, v_3\}$, $b = \{v_1, v_4\}$, $c = \{v_1, v_5\}$,
 $d = \{v_2, v_3\}$, $e = \{v_2, v_4\}$, $f = \{v_2, v_5\}$

最大マッチング問題：定式化 1 — 二部グラフにおける例 (再掲)

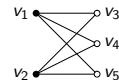
$$(P1) \quad \begin{aligned} & \text{maximize} && x_a + x_b + x_c + x_d + x_e + x_f \\ & \text{subject to} && x_a + x_b \leq 1, x_a + x_c \leq 1, x_b + x_c \leq 1, \\ & && x_d + x_e \leq 1, x_d + x_f \leq 1, x_e + x_f \leq 1, \\ & && x_a + x_d \leq 1, x_b + x_e \leq 1, x_c + x_f \leq 1, \\ & && x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f \in \{0, 1\} \end{aligned}$$



ただし,
 $a = \{v_1, v_3\}$, $b = \{v_1, v_4\}$, $c = \{v_1, v_5\}$,
 $d = \{v_2, v_3\}$, $e = \{v_2, v_4\}$, $f = \{v_2, v_5\}$

最大マッチング問題：定式化 1 — 二部グラフにおける例 (書き換え)

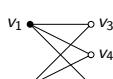
$$(P1) \quad \begin{aligned} & \text{maximize} && x_a + x_b + x_c + x_d + x_e + x_f \\ & \text{subject to} && x_a + x_b \leq 1, x_a + x_c \leq 1, x_b + x_c \leq 1, \\ & && x_d + x_e \leq 1, x_d + x_f \leq 1, x_e + x_f \leq 1, \\ & && x_a + x_d \leq 1, x_b + x_e \leq 1, x_c + x_f \leq 1, \\ & && x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f \geq 0, \\ & && x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f \leq 1, \\ & && x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f \in \mathbb{Z} \end{aligned}$$



ただし,
 $a = \{v_1, v_3\}$, $b = \{v_1, v_4\}$, $c = \{v_1, v_5\}$,
 $d = \{v_2, v_3\}$, $e = \{v_2, v_4\}$, $f = \{v_2, v_5\}$

最大マッチング問題：定式化 1 — 二部グラフにおける例 (線形計画緩和)

$$(LP1) \quad \begin{aligned} & \text{maximize} && x_a + x_b + x_c + x_d + x_e + x_f \\ & \text{subject to} && x_a + x_b \leq 1, x_a + x_c \leq 1, x_b + x_c \leq 1, \\ & && x_d + x_e \leq 1, x_d + x_f \leq 1, x_e + x_f \leq 1, \\ & && x_a + x_d \leq 1, x_b + x_e \leq 1, x_c + x_f \leq 1, \\ & && x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f \geq 0, \\ & && x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f \leq 1 \end{aligned}$$



ただし,
 $a = \{v_1, v_3\}$, $b = \{v_1, v_4\}$, $c = \{v_1, v_5\}$,
 $d = \{v_2, v_3\}$, $e = \{v_2, v_4\}$, $f = \{v_2, v_5\}$

最大マッチング問題：定式化 1 — 二部グラフにおける例 (線形計画緩和)

$$(LP1) \quad \begin{aligned} & \text{maximize} && (1, 1, 1, 1, 1) \begin{pmatrix} x_a \\ x_b \\ x_c \\ x_d \\ x_e \\ x_f \end{pmatrix} \\ & \text{subject to} && \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_a \\ x_b \\ x_c \\ x_d \\ x_e \\ x_f \end{pmatrix} \leq \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

次の $x \in \mathbb{R}^E$ は (LP1) の許容解

$$\begin{pmatrix} x_a \\ x_b \\ x_c \\ x_d \\ x_e \\ x_f \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 1/2 \\ 1/2 \\ 1/2 \\ 1/2 \\ 1/2 \\ 1/2 \end{pmatrix}$$

目的関数値は 3

最大マッチング問題：定式化 1 — 二部グラフにおける例（線形計画緩和）

$$(LP1) \quad \text{maximize} \quad (1, 1, 1, 1, 1, 1) \begin{pmatrix} x_a \\ x_b \\ x_c \\ x_d \\ x_e \\ x_f \end{pmatrix}$$

$$\text{subject to} \quad \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 \\ -1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & -1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \leq \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

すなわち、
(LP1) の最適値
 ≥ 3
 > 2
= (P1) の最適値
▶ これはよくない定式化

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 25 / 86

最大マッチング問題：定式化 1 — 二部グラフにおける例（線形計画緩和）

$$(LP1) \quad \text{maximize} \quad (1, 1, 1, 1, 1, 1) \begin{pmatrix} x_a \\ x_b \\ x_c \\ x_d \\ x_e \\ x_f \end{pmatrix}$$

$$\text{subject to} \quad \begin{pmatrix} 1 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 1 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 1 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 \\ -1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & -1 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \leq \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

係数行列の左上 3×3 は
で、行列式 = -2 なので、
係数行列は
完全ユニモジュラではない

岡本 吉央 (電通大)

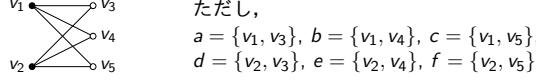
離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 26 / 86

最大マッチング問題：定式化 2 — 二部グラフにおける例（再掲）

$$(P2) \quad \text{maximize} \quad x_a + x_b + x_c + x_d + x_e + x_f$$

$$\text{subject to} \quad \begin{aligned} x_a + x_b + x_c &\leq 1, x_d + x_e + x_f \leq 1, \\ x_a + x_d &\leq 1, x_b + x_e \leq 1, x_c + x_f \leq 1, \\ x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f &\in \{0, 1\} \end{aligned}$$



すべての辺の重みは 1 とする

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 27 / 86

最大マッチング問題：定式化 2 — 二部グラフにおける例（線形計画緩和）

$$(LP2) \quad \text{maximize} \quad x_a + x_b + x_c + x_d + x_e + x_f$$

$$\text{subject to} \quad \begin{aligned} x_a + x_b + x_c &\leq 1, x_d + x_e + x_f \leq 1, \\ x_a + x_d &\leq 1, x_b + x_e \leq 1, x_c + x_f \leq 1, \\ x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f &\geq 0, \\ x_a, x_b, x_c, x_d, x_e, x_f &\leq 1 \end{aligned}$$

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 28 / 86

最大マッチング問題：定式化 2 — 二部グラフにおける例（線形計画緩和）

$$(LP2) \quad \text{maximize} \quad (1, 1, 1, 1, 1, 1) \begin{pmatrix} x_a \\ x_b \\ x_c \\ x_d \\ x_e \\ x_f \end{pmatrix}$$

$$\text{subject to} \quad \begin{pmatrix} 1 & 1 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 \\ 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \end{pmatrix} \leq \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}$$

▶ 実をいうと、
この係数行列は
完全ユニモジュラ
▶ したがって、これは
よい定式化

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 29 / 86

最大マッチング問題：定式化 2

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化 2

 $x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$(P2) \quad \text{maximize} \quad \sum_{e \in E} x_e$$

$$\text{subject to} \quad \sum_{e \in \delta(v)} x_e \leq 1 \quad (\forall v \in V),$$

$$x_e \in \{0, 1\} \quad (\forall e \in E)$$

記法 : $\delta(v) = v$ に接続する辺全体の集合

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 30 / 86

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化 2 (書き換え)

 $x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$(P2) \quad \text{maximize} \quad \sum_{e \in E} x_e$$

$$\text{subject to} \quad \sum_{e \in \delta(v)} x_e \leq 1 \quad (\forall v \in V),$$

$$x_e \geq 0 \quad (\forall e \in E),$$

$$x_e \leq 1 \quad (\forall e \in E), \quad (\leftarrow \text{この不等式は全部冗長})$$

$$x_e \in \mathbb{Z} \quad (\forall e \in E)$$

記法 : $\delta(v) = v$ に接続する辺全体の集合

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 31 / 86

岡本 吉央 (電通大)

離散最適化基礎論 (8)

2014 年 12 月 5 日 32 / 86

最大マッチング問題：定式化2（書き換え）

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化2（書き換え）

 $x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$\begin{aligned} (\text{P2}) \quad & \text{maximize} \quad \sum_{e \in E} x_e \\ \text{subject to} \quad & \sum_{e \in \delta(v)} x_e \leq 1 \quad (\forall v \in V), \\ & x_e \geq 0 \quad (\forall e \in E), \\ & x_e \in \mathbb{Z} \quad (\forall e \in E) \end{aligned}$$

記法： $\delta(v) = v$ に接続する辺全体の集合

最大マッチング問題：定式化2（書き換え）

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化2（書き換え）

 $x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$\begin{aligned} (\text{P2}) \quad & \text{maximize} \quad 1^\top x \quad \leftarrow 1 \in \mathbb{R}^E \\ \text{subject to} \quad & Bx \leq 1, \quad \leftarrow 1 \in \mathbb{R}^V \\ & -x \leq 0, \quad \leftarrow 0 \in \mathbb{R}^E \\ & x \in \mathbb{Z}^E \end{aligned}$$

 B はグラフ G の接続行列

最大マッチング問題：定式化2（線形計画緩和）

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化2（線形計画緩和）

 $x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$\begin{aligned} (\text{LP2}) \quad & \text{maximize} \quad 1^\top x \quad \leftarrow 1 \in \mathbb{R}^E \\ \text{subject to} \quad & Bx \leq 1, \quad \leftarrow 1 \in \mathbb{R}^V \\ & -x \leq 0, \quad \leftarrow 0 \in \mathbb{R}^E \end{aligned}$$

二部グラフにおける最大マッチング問題：全体像

整数計画問題：(P2)

$$\begin{aligned} \text{maximize} \quad & 1^\top x \\ \text{subject to} \quad & Bx \leq 1, \\ & x \geq 0, \\ & x \in \mathbb{Z}^E \end{aligned}$$

(DLP2) + 整数制約：(D2)

$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & 1^\top y \\ \text{subject to} \quad & B^\top y \geq 1, \\ & y \geq 0, \\ & y \in \mathbb{Z}^V \end{aligned}$$

(P2) の線形計画緩和：(LP2)

$$\begin{aligned} \text{maximize} \quad & 1^\top x \\ \text{subject to} \quad & Bx \leq 1, \\ & x \geq 0 \end{aligned}$$

(LP2) の双対問題：(DLP2)

$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & 1^\top y \\ \text{subject to} \quad & B^\top y \geq 1, \\ & y \geq 0 \end{aligned}$$

係数行列の完全ユニモジュラ性から、
(DLP2) も整数最適化を持ち、(D2) の最適値 = (DLP2) の最適値

問題(D2)の解釈(1)

(D2)の整数制約を01制約に変えたもの：(D2')

$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & 1^\top y \\ \text{subject to} \quad & B^\top y \geq 1, y \geq 0, y \in \{0, 1\}^V \end{aligned}$$

(D2')を書き直したもの

$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & \sum_{v \in V} y_v \\ \text{subject to} \quad & \sum_{v \in e} y_v \geq 1 \quad (\forall e \in E), \\ & y \geq 0, y \in \{0, 1\}^V \end{aligned}$$

これは最小頂点被覆問題を01整数計画問題として定式化したもの

最大マッチング問題：定式化2（書き換え）

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化2（書き換え）

 $x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$\begin{aligned} (\text{P2}) \quad & \text{maximize} \quad 1^\top x \quad \leftarrow 1 \in \mathbb{R}^E \\ \text{subject to} \quad & Bx \leq 1, \quad \leftarrow 1 \in \mathbb{R}^V \\ & -x \leq 0, \quad \leftarrow 0 \in \mathbb{R}^E \\ & x \in \mathbb{Z}^E \end{aligned}$$

 B はグラフ G の接続行列

最大マッチング問題：定式化2（線形計画緩和）

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化2（線形計画緩和）

 $x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$\begin{aligned} (\text{LP2}) \quad & \text{maximize} \quad 1^\top x \quad \leftarrow 1 \in \mathbb{R}^E \\ \text{subject to} \quad & Bx \leq 1, \quad \leftarrow 1 \in \mathbb{R}^V \\ & -x \leq 0, \quad \leftarrow 0 \in \mathbb{R}^E \end{aligned}$$

最大マッチング問題：01 整数計画問題としての定式化2（線形計画緩和）

 $x \in \mathbb{R}^E$ は変数

$$\begin{aligned} (\text{LP2}) \quad & \text{maximize} \quad 1^\top x \\ \text{subject to} \quad & \begin{pmatrix} B \\ -I \end{pmatrix} x \leq \begin{pmatrix} 1 \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

▶ G が二部グラフのとき、 B は完全ユニモジュラなので、
係数行列 $\begin{pmatrix} B \\ -I \end{pmatrix}$ は完全ユニモジュラ

▶ ∴ (LP2) は整数最適解を持ち、(P2) の最適値 = (LP2) の最適値

問題(D2)の解釈(1)

問題(D2)の解釈(1)

(DLP2) + 整数制約：(D2)

$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & 1^\top y \\ \text{subject to} \quad & B^\top y \geq 1, y \geq 0, y \in \mathbb{Z}^V \end{aligned}$$

(D2)の整数制約を01制約に変えたもの：(D2')

$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & 1^\top y \\ \text{subject to} \quad & B^\top y \geq 1, y \geq 0, y \in \{0, 1\}^V \end{aligned}$$

演習問題：(D2')の最適解は(D2)の最適解

(つまり、(D2)の最適値 = (D2')の最適値)

問題(D2)の解釈(1)

(D2)の整数制約を01制約に変えたもの：(D2')

$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & 1^\top y \\ \text{subject to} \quad & B^\top y \geq 1, y \geq 0, y \in \{0, 1\}^V \end{aligned}$$

(D2')を書き直したもの

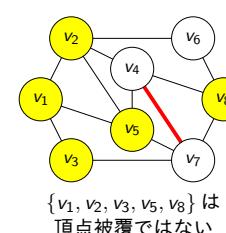
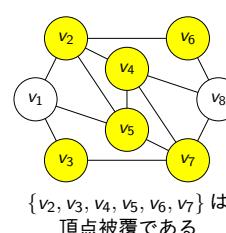
$$\begin{aligned} \text{minimize} \quad & \sum_{v \in V} y_v \\ \text{subject to} \quad & \sum_{v \in e} y_v \geq 1 \quad (\forall e \in E), \\ & y \geq 0, y \in \{0, 1\}^V \end{aligned}$$

これは最小頂点被覆問題を01整数計画問題として定式化したもの

頂点被覆

無向グラフ $G = (V, E)$

頂点被覆とは？

 G の頂点被覆とは頂点部分集合 $C \subseteq V$ で、
 G のどの辺もある C の頂点に接続しているもの

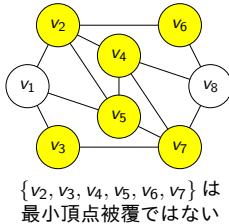
頂点被覆の頂点は、それに接続する辺を覆う（被覆する）

最小頂点被覆

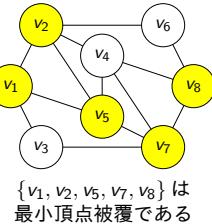
無向グラフ $G = (V, E)$

最小頂点被覆とは？

G の最小頂点被覆とは頂点被覆 $C \subseteq V$ で,
 G の任意の頂点被覆 C' に対して $|C| \leq |C'|$ を満たすもの



$\{v_2, v_3, v_4, v_5, v_6, v_7\}$ は
最小頂点被覆ではない



$\{v_1, v_2, v_5, v_7, v_8\}$ は
最小頂点被覆である

最小頂点被覆問題の定式化

無向グラフ $G = (V, E)$

最小頂点被覆とは？

G の最小頂点被覆とは頂点被覆 $C \subseteq V$ で,
 G の任意の頂点被覆 C' に対して $|C| \leq |C'|$ を満たすもの

(D2') を書き直したもの

$$\begin{aligned} & \text{minimize} && \sum_{v \in V} y_v \\ & \text{subject to} && \sum_{v \in e} y_v \geq 1 \quad (\forall e \in E), \\ & && y \geq 0, y \in \{0, 1\}^V \end{aligned}$$

ここまでまとめ — König–Egerváry の定理

- ▶ (P2) : 最大マッチング問題を 01 整数計画問題として定式化したもの

- ▶ (D2) : 最小頂点被覆問題を 01 整数計画問題として定式化したもの

二部グラフに対しては、係数行列が完全ユニモジュラなので、

- ▶ (P2) の最適値 = (D2) の最適値
すなわち、次の定理が得られる

König–Egerváry の定理

二部グラフに対して

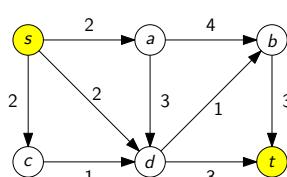
- ▶ 最大マッチングの要素数 = 最小頂点被覆の要素数

グラフ理論、離散最適化における重要な定理

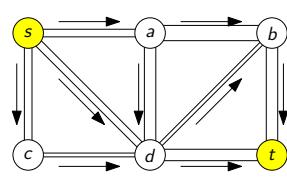
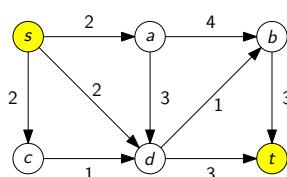
最大流問題とは？

入力

- ▶ 有向グラフ $G = (V, A)$, 各弧 $a \in A$ の容量 $c(a)$, 2頂点 $s, t \in V$
(弧の容量は非負実数)



流れとは?: 直感 (1)

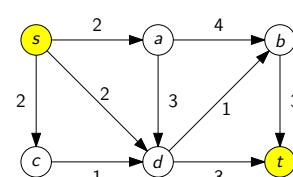


最大流問題

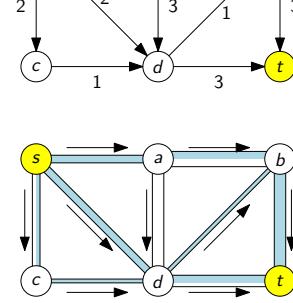
最大流問題とは？

出力

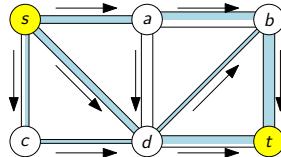
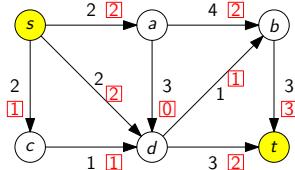
- ▶ s から t へ至る流れで、その値が最大のもの
(s から t へ至る最大流)



流れとは?: 直感 (2)



流れとは?: 直感 (3)



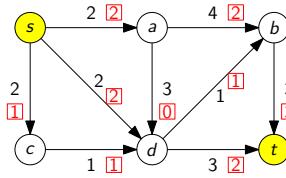
流れとは? (2)

s から t へ至る流れとは?
各弧 $a \in A$ に対する実数 $f(a)$ の割り当て (関数 $f: A \rightarrow \mathbb{R}$) で
次の 2 つを満たすもの

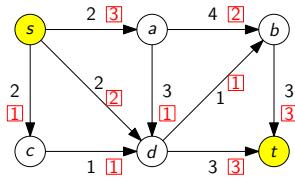
- ② 各弧 $a \in A$ において,

(容量制約)

$$0 \leq f(a) \leq c(a)$$

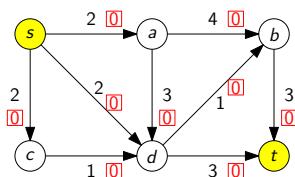


これは流れか? (2)



流れではない

これは流れか? (4)



流れである

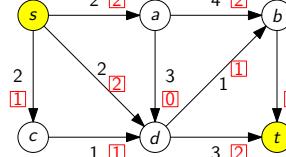
流れとは? (1)

 s から t へ至る流れとは?各弧 $a \in A$ に対する実数 $f(a)$ の割り当て (関数 $f: A \rightarrow \mathbb{R}$) で
次の 2 つを満たすもの

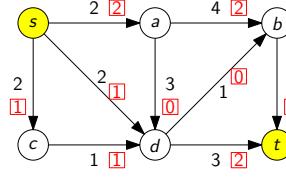
- ① s, t 以外の頂点 $v \in V - \{s, t\}$ に対して, (流量保存制約)

$$\sum_{u:(u,v) \in A} f((u,v)) = \sum_{u:(v,u) \in A} f((v,u))$$

(v へ流入する総量) (v から流出する総量)

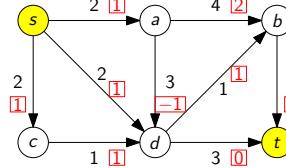


これは流れか? (1)



流れではない

これは流れか? (3)

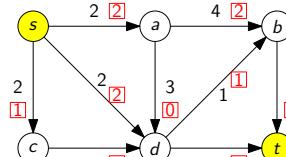


流れではない

流れの値

流れ f の値とは? s から t へ至る流れ f の値を次の量で定義し, $\text{val}(f)$ と表記する

$$\text{val}(f) = \sum_{u:(s,u) \in A} f((s,u)) - \sum_{u:(u,s) \in A} f((u,s))$$

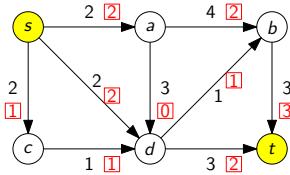


この流れの値は 5

最大流

最大流とは？

s から t へ至る流れ f が最大流であるとは、
 s から t へ至る任意の流れ f' に対して $\text{val}(f') \leq \text{val}(f)$ が成り立つこと

最大流問題
最適化モデル作成のポイント (復習)

最適化モデル作成のポイント : 基礎

次を明確にする

- ▶ 変数は何か？ 何を変数は表すのか？
- ▶ 目的関数は何か？ 何を最適化するのか？
- ▶ 制約は何か？ 何を制約は表すのか？

最適化モデル作成のポイント : 基礎の次

次を心がける

- ▶ 「非線形よりも線形」を目指す
- ▶ 「整数計画よりも 01 整数計画」を目指す
- ▶ 「big-M は使わない」を目指す

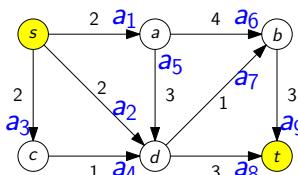
最大流問題 : 目的関数

最適化するもの : 流量

- ▶ 目的は

$$\text{最大化 } x_1 + x_2 + x_3$$

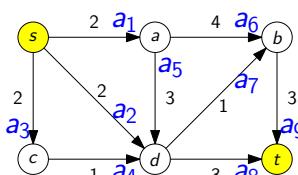
- ▶ 解釈 : 流量



最大流問題 : 制約 (2)

制約 (2) : 流量保存制約

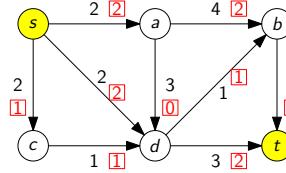
- | | |
|---------------------------------|---------------|
| ▶ $x_1 = x_5 + x_6$ | (頂点 a に関して) |
| ▶ $x_6 + x_7 = x_9$ | (頂点 b に関して) |
| ▶ $x_3 = x_4$ | (頂点 c に関して) |
| ▶ $x_2 + x_4 + x_5 = x_7 + x_8$ | (頂点 d に関して) |



はじめの目標

最大流とは？

s から t へ至る流れ f が最大流であるとは、
 s から t へ至る任意の流れ f' に対して $\text{val}(f') \leq \text{val}(f)$ が成り立つこと



はじめの目標

最大流問題を線形計画問題として定式化する

最大流問題 : 变数

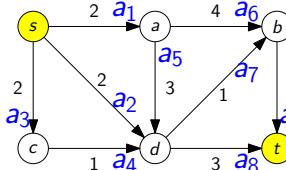
決定すべきこと : どの弧にどれだけ流すか (量)

- ▶ 各弧 $a_i \in \{a_1, a_2, a_3, a_4, a_5, a_6, a_7, a_8, a_9\}$ に対して

$$x_i \in \mathbb{R}$$

という変数を設定する

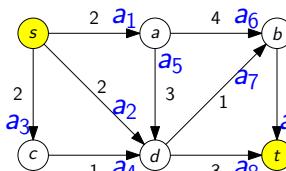
- ▶ 解釈 : 弧 a_i の上を流れる量が x_i である
- ▶ 変数の数 = 9 (弧の数)



最大流問題 : 制約 (1)

制約 (1) : 容量制約

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ▶ $0 \leq x_1 \leq 2$ | ▶ $0 \leq x_6 \leq 4$ |
| ▶ $0 \leq x_2 \leq 2$ | ▶ $0 \leq x_7 \leq 1$ |
| ▶ $0 \leq x_3 \leq 2$ | ▶ $0 \leq x_8 \leq 3$ |
| ▶ $0 \leq x_4 \leq 1$ | ▶ $0 \leq x_9 \leq 3$ |
| ▶ $0 \leq x_5 \leq 3$ | |



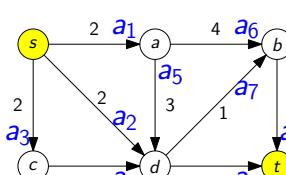
最大流問題 : 線形計画法としての定式化

最大流問題に対する線形計画問題としての定式化

```

maximize    $x_1 + x_2 + x_3$ 
subject to  $x_1 = x_5 + x_6, x_6 + x_7 = x_9,$ 
             $x_3 = x_4, x_2 + x_4 + x_5 = x_7 + x_8,$ 
             $0 \leq x_1 \leq 2, 0 \leq x_2 \leq 2, 0 \leq x_3 \leq 2, 0 \leq x_4 \leq 1, 0 \leq x_5 \leq 3,$ 
             $0 \leq x_6 \leq 4, 0 \leq x_7 \leq 1, 0 \leq x_8 \leq 3, 0 \leq x_9 \leq 3$ 

```

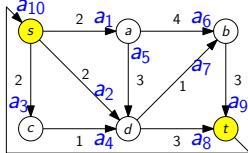


最大流問題：線形計画法としての定式化

t から s へ至る弧を付け加えて、その上の流量を最大化する、と考えた方が後の都合がよいので、そうしてみる

最大流問題に対する線形計画問題としての定式化

$$\begin{aligned} & \text{maximize } x_{10} \\ & \text{subject to } x_1 = x_5 + x_6, x_6 + x_7 = x_9, \\ & \quad x_3 = x_4, x_2 + x_4 + x_5 = x_7 + x_8, \\ & \quad x_{10} = x_1 + x_2 + x_3, x_8 + x_9 = x_{10}, \\ & \quad 0 \leq x_1 \leq 2, 0 \leq x_2 \leq 2, 0 \leq x_3 \leq 2, 0 \leq x_4 \leq 1, 0 \leq x_5 \leq 3, \\ & \quad 0 \leq x_6 \leq 4, 0 \leq x_7 \leq 1, 0 \leq x_8 \leq 3, 0 \leq x_9 \leq 3, 0 \leq x_{10} \end{aligned}$$



最大流問題：線形計画法としての定式化（一般的に）

$x \in \mathbb{R}^A$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{maximize } x_{(t,s)} \\ & \text{subject to } \sum_{u: (u,v) \in A} x_{(u,v)} - \sum_{u: (v,u) \in A} x_{(v,u)} = 0 \quad (\forall v \in V), \\ & \quad 0 \leq x_a \leq c(a) \quad (\forall a \in A) \end{aligned}$$

ただし、 $c((t,s)) = +\infty$ (または十分大きな整数) とする

最大流問題：線形計画法としての定式化（一般的に）

$x \in \mathbb{R}^A$ は変数

$$\begin{aligned} (\text{LP}) \quad & \text{maximize } (0, \dots, 0, 1)x \\ & \text{subject to } \begin{pmatrix} A \\ -A \\ -I \\ I \end{pmatrix} x \leq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ c \end{pmatrix} \end{aligned}$$

A が完全ユニモジュラなので、この係数行列も完全ユニモジュラ

最大流問題の性質（整数流定理）

容量 c が整数値関数である \Rightarrow
各弧の上の流量が整数であるような最大流が存在する

最大流問題の双対問題

$$\begin{aligned} (\text{LP}) \quad & \text{maximize } (0, \dots, 0, 1)x \\ & \text{subject to } \begin{pmatrix} A \\ -A \\ I \end{pmatrix} x \leq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ c \end{pmatrix}, x \geq 0 \end{aligned}$$

(DLP) $\text{minimize } c^\top z$

$$\text{subject to } A^\top y^1 - A^\top y^2 + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad y^1, y^2, z \geq 0$$

変数は $y^1, y^2 \in \mathbb{R}^V, z \in \mathbb{R}^A$

最大流問題：線形計画法としての定式化 — 書き換え

$$\begin{aligned} & \text{maximize } (0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 0, 1) \\ & \text{subject to } \begin{pmatrix} -1 & -1 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 1 \\ 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -1 & -1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 1 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 & 0 & 1 & 1 & 0 & -1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 1 & 1 & 1 & 1 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \\ x_6 \\ x_7 \\ x_8 \\ x_9 \\ x_{10} \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \\ & \quad \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -1 & 0 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -1 & 0 \\ 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & 0 & -1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1 \\ x_2 \\ x_3 \\ x_4 \\ x_5 \\ x_6 \\ x_7 \\ x_8 \\ x_9 \\ x_{10} \end{pmatrix} \leq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{pmatrix} \end{aligned}$$

最大流問題：線形計画法としての定式化（一般的に）

$x \in \mathbb{R}^A$ は変数

$$\begin{aligned} & \text{maximize } (0, \dots, 0, 1)x \\ & \text{subject to } Ax = 0, \\ & \quad -x \leq 0, \\ & \quad x \leq c \end{aligned}$$

A は各成分が $0, 1, -1$ であり、各列に 1 がちょうど 1 つ、 -1 がちょうど 1 つある行列
すなわち、完全ユニモジュラ

整数流定理の帰結

$x \in \mathbb{R}^A$ は変数

$$\begin{aligned} (\text{P}) \quad & \text{maximize } (0, \dots, 0, 1)x \\ & \text{subject to } \begin{pmatrix} A \\ -A \\ -I \\ I \end{pmatrix} x \leq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ c \end{pmatrix}, x \in \mathbb{Z}^A \\ (\text{LP}) \quad & \text{maximize } (0, \dots, 0, 1)x \\ & \text{subject to } \begin{pmatrix} A \\ -A \\ -I \\ I \end{pmatrix} x \leq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ c \end{pmatrix} \end{aligned}$$

係数行列の完全ユニモジュラ性より

容量 c が整数値関数である \Rightarrow

(P) の最適値 = (LP) の最適値 = (DLP) の最適値 = (D) の最適値

最大流問題の双対問題

変数は $y^1, y^2 \in \mathbb{R}^V, z \in \mathbb{R}^A$

$$\begin{aligned} (\text{DLP}) \quad & \text{minimize } c^\top z \\ & \text{subject to } A^\top y^1 - A^\top y^2 + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad y^1, y^2, z \geq 0 \end{aligned}$$

$y = y^1 - y^2$ と置き直す

$$\begin{aligned} (\text{DLP}') \quad & \text{minimize } c^\top z \\ & \text{subject to } A^\top y + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad z \geq 0 \end{aligned}$$

最大流問題の双対問題

$$\begin{aligned} (\text{LP}) \quad & \text{maximize } (0, \dots, 0, 1)x \\ & \text{subject to } \begin{pmatrix} A \\ -A \\ I \end{pmatrix} x \leq \begin{pmatrix} 0 \\ 0 \\ c \end{pmatrix}, x \geq 0 \end{aligned}$$

(DLP) $\text{minimize } c^\top z$

$$\text{subject to } A^\top y^1 - A^\top y^2 + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad y^1, y^2, z \geq 0$$

変数は $y^1, y^2 \in \mathbb{R}^V, z \in \mathbb{R}^A$

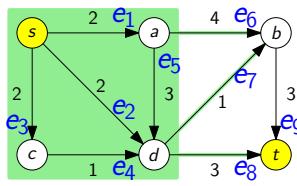
$$(DLP') \quad \text{minimize} \quad c^T z$$

$$\text{subject to} \quad A^T y + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad z \geq 0$$

$$(D') \quad \text{minimize} \quad c^T z$$

$$\text{subject to} \quad A^T y + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad z \geq 0, y \in \mathbb{Z}^V, z \in \mathbb{Z}^A$$

カット

s, t カットとは？**s, t カット**とは、頂点部分集合 S で、 $s \in S$ と $t \notin S$ を満たすもののことイメージ： s から t へ至る流れは S の側から $V - S$ の側に向かっていく

(D') をよく見てみる (1)

$$(D') \quad \text{minimize} \quad c^T z$$

$$\text{subject to} \quad A^T y + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad z \geq 0, y \in \mathbb{Z}^V, z \in \mathbb{Z}^A$$

これは最小化問題

- $(y^*, z^*) \in \mathbb{Z}^V \times \mathbb{Z}^A$ を (D') の最適解 (の1つ) とする
- $c((t, s)) = +\infty$ なので、 $z_{(t,s)}^* = 0$
- 不等式制約における弧 (t, s) に対応する行を見ると

$$-y_t^* + y_s^* + z_{(t,s)}^* \geq 1$$

- $\therefore y_s^* \geq 1 + y_t^*$
- ここで、 $S = \{v \in V \mid y_v^* \geq y_s^*\}$ とする (注： $s \in S, t \notin S$)

(D') をよく見てみる (3)

$$(D') \quad \text{minimize} \quad c^T z$$

$$\text{subject to} \quad A^T y + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad z \geq 0, y \in \mathbb{Z}^V, z \in \mathbb{Z}^A$$

 $S = \{v \in V \mid y_v^* \geq y_s^*\}$ とする

- したがって、

$$(D') \text{ の最適値} = c^T z^* \geq \sum_{(u,v) \in A, u \in S, v \notin S} c((u,v))$$

- この右辺は s, t カット S の容量と等しい

考えていた問題

- (LP) : 最大流問題
 - (DLP) : (LP) の双対問題
 - (DLP') : (DLP) を書き直した問題
 - (D') : (DLP') に整数制約を加えた問題
- 帰結 : (LP) の係数行列が完全ユニモジュラであるので
- 容量が整数值関数であるとき、(LP) の最適値 = (D') の最適値つまり、最大流の値 = ある組合せ最適化問題の最適値

疑問

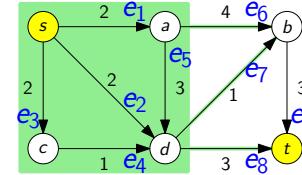
「ある組合せ最適化問題」とは何か？

最大流問題

カットの容量

s, t カットの容量とは？**s, t カット S の容量**とは、次の式で定義され、 $\text{cap}(S)$ と表記する

$$\text{cap}(S) = \sum_{(u,v) \in A, u \in S, v \notin S} c((u,v))$$

 **S に始点を持ち、 $V - S$ に終点を持つ弧の容量の合計**

最大流問題

(D') をよく見てみる (2)

$$(D') \quad \text{minimize} \quad c^T z$$

$$\text{subject to} \quad A^T y + z \geq \begin{pmatrix} 0 \\ \vdots \\ 0 \\ 1 \end{pmatrix}, \quad z \geq 0, y \in \mathbb{Z}^V, z \in \mathbb{Z}^A$$

 $S = \{v \in V \mid y_v^* \geq y_s^*\}$ とする

- 弧 (u, v) が $u \in S, v \notin S$ を満たすとき、 $y_u^* \geq y_v^*$
- また、 $y_v^* < y_s^*$ ので、 $y^* \in \mathbb{Z}^V$ より、 $y_v^* \leq y_s^* - 1$
- したがって、不等式制約における弧 (u, v) に対応する行を見ると

$$\begin{aligned} -y_u^* + y_v^* + z_{(u,v)}^* &\geq 0 \\ \therefore -y_s^* + y_s^* - 1 + z_{(u,v)}^* &\geq 0 \\ \therefore z_{(u,v)}^* &\geq 1 \end{aligned}$$

最大流問題

最大流と最小 s, t カットの関係

- つまり、

最大流の値 = (LP) の最適値

= (D') の最適値 \geq ある s, t カットの容量

- その一方で、任意の流れ f と任意の s, t カット S に対して

(演習問題)

 f の値 $\text{val}(f) \leq S$ の容量 $\text{cap}(S)$

- したがって、

最大流の値 = ある s, t カットの容量(この s, t カットは最小容量の s, t カット)

最大流最小カット定理

容量が整数值関数であるとき、

最大流の値は s, t カットの最小容量に等しい

① 前回までの復習

② 二部グラフにおける最大マッチング問題

③ 最大流問題

④ 今日のまとめ

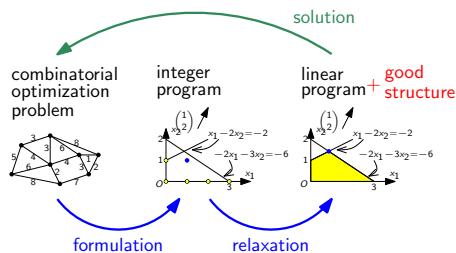
今日の目標

今までの講義内容を用いて以下の問題に取り組む

- ▶ 二部グラフにおける最大マッチング問題
 - ▶ König–Egervary の定理
- ▶ 最大流問題
 - ▶ 整数流定理
 - ▶ 最大流最小カット定理

これらの定理は組合せ最適化における基本的な定理であり、この講義では線形計画法の立場から証明を行った

この講義のねらい：流れ



- 組合せ最適化問題を整数計画問題として定式化
- 整数計画問題を線形計画問題として緩和
- 線形計画問題の「よい」構造を観察
- 線形計画問題を用いて組合せ最適化問題の解決 ←次回もココ

次回と次々回の予告

次回と次々回の予告

係数行列が完全ユニモジュラでないけれども、制約に現れる不等式系が完全双対整数性を持つ場合を扱う

- ▶ 最小全域木問題
- ▶ 最大マッチング問題

(次回)
(次々回)